

平成 28・29 年度

川崎市教育委員会研究推進校
外国語（英語科）

学ぶ意欲を高め、発信力へとつなげる指導法の工夫
～ CLIL の研究を通して～



平成29年11月24日(金)

川崎市立橋中学校

研究推進にあたって

校長 相沢 宏明

平成 29 年 3 月に公示された新学習指導要領では、改訂のポイントの一つとして、小学校中学年における「外国語活動」、高学年における「外国語科」の導入があげられます。小・中・高等学校の一貫した学びを重視し、外国語能力の向上を図ることが目標に設定され、その中間に位置する中学校の英語指導の重要性は、今後益々高くなることが予想されます。さらに新学習指導要領では、全ての科目において「生徒が何を、どのように学ぶのか」、そしてその学びを通して身につけた知識・技能を活用して「何ができるようになるか」を明確にすることが重視されています。情報化、グローバル化が日々進展する社会で、身の回りの情報を正確に受け止め、自ら判断し、他者と共存・協働することで課題を克服していくための力の育成が、学校教育に求められていることを、あらためて認識しなければなりません。

本校では平成 28・29 年度の 2 年間にわたり川崎市教育委員会研究推進校として、研究主題を「学ぶ意欲を高め、発信力へとつなげる指導法の工夫 ～CLIL の研究を通して～」と設定し、英語科全教員が目標の具現化に向けて日々の授業を通して研鑽を積み重ね、研究に取り組んで参りました。特に新しい英語学習法として広まりつつある「内容・言語統合型学習 (CLIL)」を取り入れた授業展開によって英語教育の質的向上を図り、4 技能 (話す・書く・聞く・読む) をバランスよく高めることを目指してきました。具体的には、*理科、社会科など英語以外の教科に関連する題材を取り扱うことで内容を深め、生徒の学習意欲を高める。*ペアによる対話活動を繰り返すことで、実践的なコミュニケーション能力の向上を図る。*グループ活動を取り入れることが深い思考活動につながり、知識・技能の定着にも有効である。*それだけでなく、他者と協働することで視野を広げたり新たな価値観に触れたりする機会を増やすこともできる。などがあげられます。このようにして、生徒が学んだ知識・技能を生かして思考し、判断し、表現することまでを一連の単元指導計画のなかで体系化することを目標として研究を深めてまいりました。

「教師が何を教えるか」から、「生徒が何をどのように学び、学んだものをどう使えるようになるか」に焦点を当てて授業を変えることで、新しい学習指導要領が唱える「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業にも近づくことができたのではないかと思います。

最後になりますが、この研究の推進にあたりましてご指導を賜りました川崎市総合教育センター カリキュラムセンター 伊藤 敏明指導主事、鬼頭 洋司指導主事、川崎市中学校教育研究会英語科部会 金子 勉 部会長 (金程中学校校長)、東京家政大学 太田 洋 教授、玉川大学 工藤 洋路 准教授に深く感謝申し上げます。引き続き、英語学習を通して習得した知識・技能を、進んで活用する生徒の育成に努めて参ります。また英語科の実践にとどまることなく、全教科にこの実践が広まることを目指して参ります。今後ともご指導下さいますようお願い申し上げます。

目 次

研究発表にあたって	1
I 研究の概要	3
1 研究主題の設定	
2 研究構想図	
II 研究方法と経過	5
1 研究方法	
(1) 先行研究の分析	
(2) CLIL とは	
(3) 本校の課題と CLIL	
2 研究経過と課題	
III 研究の内容	11
1 教科書を基底にした発展的活動・検証授業 1	
2 英語を使った自然な形での話し合い活動・検証授業 2	
3 実生活に近い課題の設定・検証授業 3	
IV 研究のまとめ	24
1 研究の成果と課題	
(1) 教科書を基底に捉えた発展学習	
(2) 英語での言語活動を広げるインタラクションの実践	
(3) 生徒の実生活に近い課題の設定	
2 まとめ	
おわりに	26
＜参考文献＞	
＜指導助言者＞	
＜研究に携わった教職員＞	

I 研究の概要

1 研究主題の設定

本校は、創設 60 年を越え、親子で本校を卒業している家庭も多く、フェスタ IN 橋中 (PTA バザー) などの地域との交流も盛んである。合唱コンクールや橋翔祭 (文化祭)、体育祭などの学校行事には、多くの地域の方が来校する。また、校訓に『向上心』を掲げ、「ひとりひとりの個性を伸ばし、知・徳・体・意の調和のとれた人間性豊かで、たくましい生徒を育成する」を学校教育目標として、日々の教育活動に取り組んでいる。特に教科指導については、「①基礎的・基本的な学力を身につける指導の実践」「②自ら学び、考える授業の展開」「③特別支援教育の充実」の 3 本柱を基軸に、各教科で授業力の向上に努めてきた。

一方、本校生徒の実態としては、平成 28 年度全国学力・学習状況調査において、「自分には良いところがある (72.2%)」「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができた (66.0%)」と、授業や学校行事等において、生徒たちが自分の意見を述べ、互いに良さを認め合いながら活動することで、生徒一人ひとりが自信をもつことができていることがうかがえる。また、身近で英語に限らず外国語に触れる機会も多く、「外国人の友人が欲しい」と答える生徒や海外への関心が高い生徒も多くいる。しかしながら、英語を通しての活動となると活発にはならず、自分の考えが表現できずに歯がゆい思いをする生徒や、表現することをあきらめてしまう生徒も少なくない。また、「将来の夢や目標をもっている」と回答する生徒は 49.4%と低く、本校の課題といえる。

生徒一人ひとりの個性を伸ばすには、まずは自分の良さを知り、将来の希望へとつなげることが大切である。生徒たちがお互いの良さを認め合いながら共生し、協同する姿勢が見られるものの、それが将来の希望へとつながっていない。

そこで、生徒たち自身が自らの夢や希望を膨らませる活動をさらに充実させるような取組が必要なのではないだろうかと考えた。それには地域や社会へも目を向けさせ、生徒の社会的自立を目指すことが大切である。そして、地域や学校、自分自身といった、身近な内容や題材を使い、日常生活と教科の内容を関連付けさせるような取組が必要となってくる。

また、生徒たちがこれからの社会の中で自立していくには、まず自分自身の身近なことについて考え、自分の意見を相手に伝えられることが必要である。そこで「自分の考えを自分の言葉で表現する」という発信力の部分に重点を置いた指導が必要だと考えた。

そこで、本校では次のように研究主題を設定した。

学ぶ意欲を高め、発信力へとつなげる指導法の工夫

～CLIL の研究を通して～

校訓「向上心」

【 学校教育目標 】

「ひとりひとりの個性を伸ばし、知・徳・体・意の調和のとれた人間性豊かで、たくましい生徒を育成する」

《各教科での授業力の向上》

- ① 基礎的・基本的な学力を身につける指導の実践
- ② 自ら学び、考える授業の展開
- ③ 特別支援教育の充実



育てたい生徒像

「自分のことを、自分の言葉で語ることのできる生徒」



本校研究

「学ぶ意欲を高め、発信力へとつなげる指導法の工夫」

～CLILの研究を通して～

CLIL 的学習法

- ① 教科書を基底にした発展的活動
- ② 英語を使った自然な形での話し合い活動
- ③ 実生活に近い課題の設定

Ⅱ 研究方法と経過

1 研究方法

(1) 先行研究の分析

平成 26・27 年度本市研究推進校であった菅生中学校と、平成 27 年度に行われた関東甲信地区中学校英語教育研究協議会での研究内容を分析し、そこで行われていた CLIL (Content and Language Integrated Learning 内容言語統合型学習) に注目した。

《 菅生中学校の取組 》

菅生中学校は、「他を認め自己を発信することができる生徒」の育成を目的に、「表現力を高める指導の工夫」を研究主題として、第二言語習得論に基づく「CLIL 的な活動」を取り入れた実践研究をおこなった。「中学卒業期までに学習した学習内容や中学生活の思い出を小グループで卒業ビデオに収め、クラスで発表し、作品について意見を交換すること」を最終目標にし、海外旅行でのスキット作り等授業にオーセンティックな題材を取り入れ、意図的に生徒同士がコミュニケーションを図り、課題を解決する活動を設定した。

研究の成果としては、生徒が意見を交換し、考えて発話する場面が見られるなど、「発話量の増加や英語の使用に関する意欲の向上」があげられた。

課題としては、「発話の内容に関わる質的な研究が望まれる」ことを自ら指摘する。単元「自分のことを伝えよう」では、スピーチ原稿を各自で作成して持ち込ませたことで、原稿を読む活動になってしまったとともに、テーマを設定することが課題となってしまう、発表内容に個人差が生じてしまっていた。

《 関東甲信地区中学校英語教育研究協議会 (第 2 分科会) の成果と課題 》

関東甲信地区中学校英語教育研究協議会 (第 2 分科会) では、「受信から発信へ～学習内容の工夫～」をテーマに、CLIL の理論を取り入れ、生徒の思考力と言語力の双方を高める指導について研究した。TOTAL ENGLISH 2 Lesson 6 「3Rs」の題材を使い、カナダ出身の ALT に自国の 3Rs について映像を使いながら説明してもらい、生徒たちはそれを聞きながら、さらに日本の 3Rs について考えを深めるといふ実践を行った。

研究の成果としては、教科書のドイツ、ALT のカナダの 3Rs を提示することで、生徒の動機づけがなされ、3Rs に対する豊富なインプットを得ることができたことである。

課題としては、日本とカナダとの 3Rs の相違について、聞いただけでは英語での理解が難しく、さらに生徒が自分の言葉で表現するには難しくなってしまったことである。それにより、生徒同士の英語での議論も難しくなってしまっていた。

(2) CLILとは

CLILとは、Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）の略であり、内容と言語の両方を同時に学ぶ教育方法である。元来ヨーロッパを中心に、世界的に広がる言語教育アプローチであり、教科内容を題材にしてさまざまな言語活動と指導を行い、外国語の4技能を向上させていくことを目指す指導法である。CLILでは、「4つのC」とよばれる「Content（内容）」、「Communication（学習言語）」、「Cognition（思考活動）」、「Community（協学） or Culture（文化・国際理解）」が必要とされる。

利点としては、「文字以外に音声・数字・視覚による情報や、オーセンティック素材を使用することで内容に厚みができ、それによって学習者の動機づけが高まる。」「内容学習と言語学習の比重を等しくすることで、意味のある豊かなインプットが与えられる。」「協同学習（ペアワーク、グループ活動）を取り入れているので、インタラクションを行う必然性が生まれやすい。」「さまざまなレベルの思考力（暗記・理解・応用・分析・評価・創造）を活用することで、深い思考が可能となり、思考に定着しやすい。」等があげられる。

CLILに基づく実践にあたり、不可欠な点は以下の10項目である。

- ① 内容学習と言語学習の比重を等しくする。
- ② オーセンティック素材（新聞、雑誌等の活用）
- ③ 文字以外に、音声・数字・視覚による情報を与える。
- ④ 様々なレベルの思考力（暗記・理解・応用・分析・評価・創造）を活用する。
- ⑤ タスクを多く与える。
- ⑥ 協同学習（ペアワーク、グループ活動）を重視する。
- ⑦ 異文化理解や国際問題の要素を入れる
- ⑧ 内容と言語の両面での足場 scaffold（学習の手助け）を用意する。
- ⑨ 4技能をバランスよく統合して行う。
- ⑩ 学習スキルの指導を行う。

(3) 本校の課題と CLIL

先行研究などをもとに、1年間 CLIL を研究、実践を重ねた。その結果、本校の課題の解決のために有効と思われる以下の3点があがった。

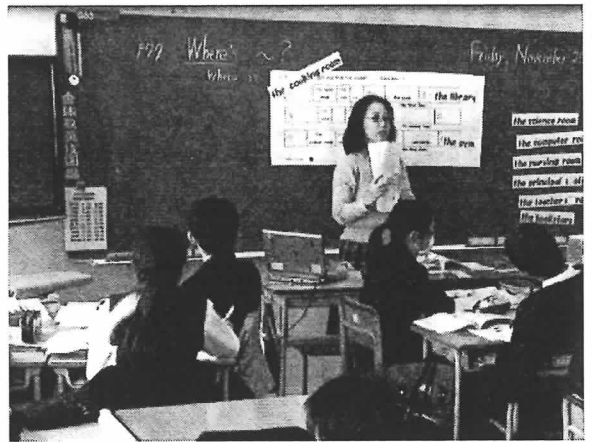
- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 教科書を基底にした発展学習2 英語を使った自然な形での話し合い活動3 実生活に近い課題の設定 |
|--|

① 教科書を基底にした発展学習

教科書は、生徒自らが学習する有用な教材であり、教科書の内容と大きく離れた実践は、現在の年間授業時間数を考えても難しいものがある。そのため、単元目標や一時間の授業で習得させたい知識・技能を明らかにした上で、CLILの視点に基づいて教科書の活用方法について検討しなければならない。そのためにも、教師が教科書の内容について日頃から理解を深めることが必要となる。また、生徒にとって身近な題材は他の教科から得ることも可能である。年度初めに作成される各教科の年間学習計画表などを利用し、生徒がすでに日本語で理解しているであろう内容を使用することで、内容理解のハードルを下げられるのではないかと考えた。また、英語を通して学び直すことで、生徒自身が考えていることを表現する際のハードルも下げられるのではないかと考えた。

② 英語を使った自然な形での話し合い活動

CLILでは、協同学習（ペアワーク、グループ活動）が重視されている点に注目した。そして、授業や学校行事において自分の意見を述べ、互いを認め合いながら活動することに慣れている本校生徒の特徴を生かすことができるのではないかと考えた。授業の中でできる限り多く、自然な形での話し合い活動を取り入れることで、生徒間にインタラクションを行う必然性が生まれ、既習の英語表現を実際に使用する機会が得られるのではないかと考えた。また、既習の英語表現と知識や思考を駆使して、他者と交流することで新たな価値を創造する力を養うことができるのではないかと考えた。



③ 実生活に近い課題の設定

CLILは、オーセンティック素材を使い、実生活と密接に関係するものを題材とするが、CLILの考え方をそのまま厳格に実施しようとすると、中学校での展開は難しいと感じる点が多い。そこで、題材の中でも生徒が自分自身のこととして取り組める課題を設定することで、より生徒への学習効果を高めることができるのではないだろうか。そしてその課題は、地域など、生徒の身近なところにその多くを求めることができるのではないかと考えた。また橘中学校の生徒分析結果から、身近な課題に対して意欲的に取り組むだけでなく、その学習内容について高い理解を示すことが明らかとなっている。このことから、生徒にとって身近な内容を題材とするCLIL的な学習法は、本校の英語教育に有用な指導法であると考えられる。



2 研究経過と課題

《 平成 28 年度 》

月 日	概 要
4 月 1 日	川崎市教育委員会より英語科研究推進校として指定を受ける
4 月 26 日	英語科部会「研究主題・副題について検討・決定」(伊藤敏明指導主事来校)
6 月 10 日	第 1 回川崎市中学校教育課程研究会 参加
7 月 6 日	第 1 回校内授業研究会 (伊藤敏明指導主事来校) 1 年 1 組 山川知恵子 教諭 Lesson 2 “Do you like Animals?”
9 月 7 日	英語科部会「指導案検討」
9 月 21 日	第 2 回校内授業研究会 (伊藤敏明指導主事・太田洋教授 (東京家政大学)・関プロ第 2 分科会研究チーム来校) 1 年 6 組 山川知恵子 教諭 Lesson 4 “Nice to Meet You.” 2 年 1 組 中屋敷康子 教諭 Lesson 4 “Hiro in the U.K.” 3 年 5 組 倉坂 光 教諭 Lesson 5 “Stevie Wonder-The Power of Music”
11 月 7 日	英語科部会「指導案検討」
11 月 25 日	第 3 回校内授業研究会 (伊藤敏明指導主事来校) 1 年 3 組 平間 真実教諭 Lesson 6 “Junior High School in the U.S.” 2 年 1 組 今井あすか教諭 Lesson 6 “The 3Rs in Germany and Japan” 3 年 5 組 長尾希代美教諭 Chapter 3 Project 尊敬する人についてスピーチしよう
1 月 20 日	研究推進校中間報告会 (金子勉部会長 (金程中学校校長)・伊藤敏明指導主事来校) 1 年 2 組 山川知恵子 教諭 Lesson 8 “The Moon and the Stars” 2 年 8 組 佐藤 良平 教諭 Lesson 7 “World Heritage Sites”

【 平成 28 年度研究実践と課題 】

研究 1 年目は、英語科全員が CLIL について勉強することから始めた。先行研究である菅生中学校の研究推進の授業実践や、関東甲信地区中学校英語教育研究協議会での実践の分析や、和泉伸一著「フォーカス・オン・フォームと CLIL の英語授業」をもとに、各学年で教科書の内容から発展させる形で、授業実践を行った。

中間発表においては、1 年生では Lesson 8 “The Moon and the Stars” を使い、世界では月の見え方が違うことをドイツやインドなどの例を挙げて学習するとともに、生徒達それぞれがどう見えるのか表現させることで、国ではなく個人の感じ方が違うということを理解することを学習目標にした。2 年生では Lesson 7 “World Heritage Sites” を使い、様々な世界遺産を学習するとともに、自分たちの身近な川崎のものを世界遺産としてプレゼンテーションさせることで、住んでいる町について考えることを学習目標にした。

課題としては、以下の 3 点が挙げられた。

- ① 生徒の身近な課題を使った内容は、生徒たちの取組も活発になり、動機づけが高まることが分かった。しかし、レッスンごとの課題を考え、準備することに時間と手間がかかり、教師の負担が大きい。また、新出語句や文法事項などの練習に重きを置いてしまいがちになり、内容学習と言語学習の比重を等しくすることが難しい。
- ② One minute chat のような帯活動を取り入れ、生徒同士のインタラクションを定期的に行った。テーマに沿って、短時間にペアや 4 人グループで会話をするというもので、会話のための表現シートなどを導入しながら 1 年間取り組んだ結果、生徒たちの発話量はどんどん増えていった。しかし、その活動以外の教科書の内容を考えるなどの他の活動になると、途端に日本語になってしまい、授業内での英語での会話量はなかなか増えていかなかった。
- ③ 教科書で取り上げられている内容の中には、3Rs のように生徒にとって考えることが難しい題材も含まれている。中身のある内容によって、生徒の動機づけは高まるが、英語を通した理解となると難しくなり意欲がなくなる生徒も少なくなかった。また、英語での自分の意見を表現することも難しく、深い思考までさせることができなかった。教科書を基底にした発展的活動のような、CLIL 的な活動を展開するには、教師自身が教科書をしっかりと読んで分析する必要があり、生徒への題材の提示の仕方に工夫が必要だと感じた。

このことから、2 年目の研究では、「1 教科書を基底にした発展的学習」「2 英語を使った自然な形での話し合い活動」「3 実生活に近い課題の設定」を研究テーマに授業実践をした。

《 平成 29 年度 》

月 日	概 要
5 月 30 日	第 1 回校内授業研究会 (鬼頭洋司指導主事・伊藤敏明指導主事来校) 3 年 9 組 中屋敷康子 教諭 Lesson 2 “Junior High School Club Life”
6 月 7 日	第 2 回校内授業研究会 2 年 5 組 山川知恵子 教諭 Lesson2 “Gestures”
6 月 15 日	CLIL 講習会 (東京家政大学) 参加 講師 和泉伸一教授 (上智大学)
6 月 28 日	英語科部会「指導案検討」
7 月 6 日	第 3 回校内授業研究会 (鬼頭洋司指導主事・太田洋教授 (東京家政大学) 来校) 1 年 7 組 倉坂 光 教諭 Lesson4 “Nice to Meet You”
7 月 19 日	英語科部会「紀要内容検討」
10 月 13 日	第 4 回校内授業研究会 3 年 8 組 佐藤 良平 教諭 Lesson4 “Speech-A Man’s Life in Bhutan”
10 月 17 日	第 5 回校内授業研究会 (鬼頭洋司指導主事・工藤洋路准教授 (玉川大学) 来校) 3 年 2 組 今井あすか 教諭 Lesson 4 “Speech-A Man’s Life in Bhutan” 英語科部会「研究報告会用指導案検討」
11 月 24 日	研究報告会 1 年 5 組 倉坂 光 教諭 Chapter 2 Project “〇〇さんを紹介しよう” 2 年 5 組 山川知恵子 教諭 Lesson6 “The 3Rs in Germany and Japan” 3 年 5 組 中屋敷康子 教諭 Lesson5 “Stevie Wonder”

Ⅲ 研究の内容

1 教科書を基底にした発展的活動

身に付けさせたい資質・能力を明らかにした上で、CLILの視点に基づいて教科書の活用方法について検討を行った。教師が教科書の内容について日頃から理解を深め、また、他の教科で学んだことや学校行事などと結び付けられるようにした。生徒がすでに日本語で理解しているであろう内容を使用することで、内容理解を容易にすることができた。また、生徒自身が考えていることを表現する際に、表現活動に取り組みやすくなった。

◆検証授業 1 TOTAL ENGLISH 3 Lesson 2 “ Junior High School Club Life ” ◆

TOTAL 3 Lesson 2 では部活動についての内容であったため、単元の出口として自分たちの学校の部活動を紹介しようとするテーマを扱い、発信しようというねらいで指導計画を立てた。ただ部活動紹介を作るだけではなく、発信先を意識した発表にすることで、生徒たちの表現がより具体的になった。

内容理解では、今回の授業の目的が「自分たちの学校の部活動を紹介する」というテーマなので、ALTに作成してもらったアメリカの部活動紹介のスライドを使って日米の部活動の違いに目を向けてから（またそのスライドでの紹介が発表のモデルになればという思いもあり）自分たちの部活動について情報を得るためのリサーチ活動を行った。リサーチ活動ではクラスで情報を得る前に4人グループで質問内容を考えさせた。

■単元指導計画

時間	○ねらい ・学習活動
第1時	○【2A】本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ○現在完了形（完了）の文構造を理解する。
第2時	○【2A】本文の内容を理解する。 ・本文の内容理解 ・意見交換
第3時	○【2B】現在完了形の疑問文の構造を理解する。 ・グループ活動で現在完了形の疑問文のアクティビティを行い理解する。
第4時	○【2B】 ○本文の内容を理解する。・本文の内容理解・本文についてリテリング
第5時	○【2C】 ○現在完了形の否定文の構造を理解する。 ・リスニングの活動を通して現在完了形の否定文を理解する。
第6時	○【2C】 ○本文の内容を理解する。 ・本文の内容理解 ・本文について、自分の感想を付け加えながら内容が伝わるように話す。
第7時 (本時)	○橋中学校の部活動を外国の人に伝えよう ・国によって部活動の在り方が違うことを理解する。 ・クラス内で部活動についてリサーチする。
第8時	○橋中学校の部活動を外国の人に伝えよう。 ・リサーチした内容をもとに橋中学校の部活動について伝える。

■本時の目標

- ① 日本の部活動について聞き手に内容が伝わるように話すことができる。
- ② アメリカの部活動について聞いて、理解することができる。
- ③ 間違えることを恐れず、会話を続けようとする。

■本時の展開

※**S-S** : Students – Students

SS : Students (個人の活動)

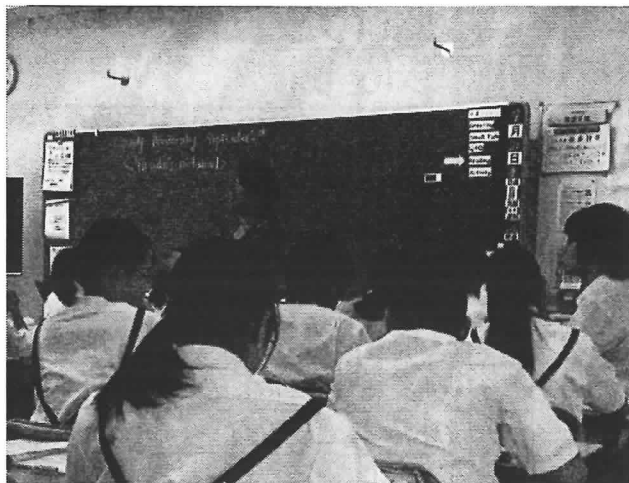
時間	指導過程	学習活動	指導上の留意点	評価の視点
導入 (10分)	Greeting Sing a song Chat	<ul style="list-style-type: none"> ・英語であいさつをし、日付、曜日、天気を確認する。 SS ・CDにあわせて歌を歌う。 SS ・与えられたテーマ(部活動)についてグループで意見交換する。 S-S 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の雰囲気を作る。 ・机間指導をして、生徒を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に活動に取り組んでいるか。 ・英語で話を続けようとしているか。
展開 (35分)	橋中学校の部活動について外国の人に紹介しよう。			
	Let's listen! Let's Research!	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの部活動紹介のスライドを聞いて情報を確認する。(グループ活動) S-S ・クラスで各部活動の内容についてリサーチする。 S-S ・自分たちがリサーチした内容を班でまとめ、何の部活を紹介するか決める。 S-S ・自分たちが紹介する部活動の紹介内容を考える。 S-S 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導をして、生徒を支援する。 ・活動の目的をわかりやすく提示する。 ・例を示して、活動を促す。 ・早くできたグループは発表の練習に入る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・得た情報を理解しているか。 ・相手に分かりやすいように話しているか。 ・話し合いに積極的に参加しようとしているか。
(Ex. We've learned your club activities in America. We have tennis club, too. But in Japan, we play tennis all seasons. We practice it after school from Monday to Friday. We also have games on Saturday or Sunday. We practice it hard every day to win games. We love playing tennis. You can enjoy it very much. Why don't you come and play with us?)				
まとめ (5分)	Can-Do Check Greeting	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返る。 ・あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導をして、生徒を支援する。 	

アメリカの中学校の部活動について書かれている教科書の内容が、内容理解をした後に実際にALTに自国の部活動について話してもらったことで、生徒にとってより身近に感じられるものになった。また、その後、自分たちの学校の部活動について紹介するという活動を通して、既習の語彙や文法事項を積極

的に使おうとする姿勢も見られた。

しかし、いくつかの課題が残った。帯活動で行っている chat で、自分たちの部活についての話題をペアで意見交換して発表への土台を作れるようにしてみたが、あまり話題の広がりが見受けられなかった。しかし授業の目的を生徒が理解して活動に取り組んでいたことや、英語でやり取りしようとする姿勢を高めることになった点は効果的であった。今後も chat などの英語を使って会話をするやり取りの練習を、継続的に行っていく必要を感じた。

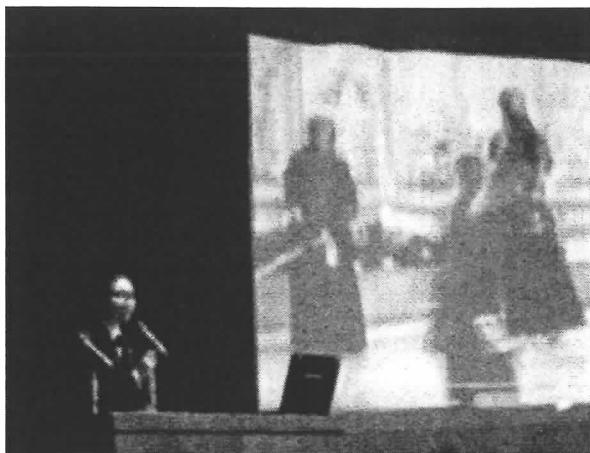
教科書の内容から発展させたリサーチ活動では、アメリカの部活動と対比する形で自分たちの部活動について考えを深めることができ、活発なリサーチ活動を行うことができたが、英語でのやり取りというよりは日本語で質問内容を考えてそれを英語にするというグループがほとんどで、英語で話し合うという場にならず停滞した活動となってしまった。すべてを英語でやり取りさせるのは難しいにしても、話し合いの手順や話し合いを進めるのに役に立つ英語の補助プリント等の工夫があれば、生徒たちも英語を使って活動し



やすかったのではないかと。また、質問内容もわざわざリサーチをしなくても知っているものも多く、活動に入る前にモデルとして提示した内容に、生徒が知りたいと思うような質問例を挙げていけば、もっと意欲的に活動してリサーチする意義があるものになったと考える。また、リサーチする際に使う英語も質問をしてそれに答えるだけに終わってしまう生徒も多く見受けられたので、そこにも補助的に使うプリント等の工夫があれば、もう少し自然なリサーチができたのではないかと。

そこで、話し合い活動を英語を使って円滑に進めるために、話し合いの手順（司会原稿的な役に立つ英語集のようなもの）を作成することが検討された。帯活動で chat は行っているものの、何もないところから英語を使うことはハードルが高いので、手順や役に立つ英語集的なものがあるとそれを足掛かりに会話をしようとするので、今後の活動に取り入れていきたい。

また、リサーチや発表活動では、予め生徒が知っているような決まりきったものではなく、それを知って「そうなんだ」と感動したり驚いたりする場面があると、使用した英語が実体験に繋がり、英語を通して内容が理解できたことに繋がるのではないかと。今後はインタビュー／リサーチ活動やプレゼンテーション活動等でも、生徒が英語を通してリアルな感情とともに理解できる内容を工夫が必要となってくるだろう。



Let's introduce our club activities!



☆ 1. Listening ☆

~memos~

Japan VS American Sports
 1つの部活だけをやる 毎日練習する
 季節ごとにスポーツをかえる
 勉強ができておもしろい
 例 フットボール 秋
 ゴルフも
 それぞれのスポーツがある

☆ 2. Choose one of our clubs ☆

Baseball

☆ 3. Research about teams/clubs ☆

1. Think about questions in your group. (5mins)
2. Ask questions classmates.

<questions>	<answers>
1 How many members in your club?	About 25 members
2 Who is a good player?	It is Shinta Takeshima.
3 Who is running the fastest in your club?	It is Kosuke Urabe.
4 Can you hit homerun?	Yes, I can.
more	more

- Useful words
 game(race/tournament)/practice game/ practice/ adviser/ teammate /member/ gym/
 ground/won(lose) the game/ contest/

☆ 4. Write your club that you'll introduce ☆

We hear you haven't decided your club activity.
 We'll introduce our Baseball club.
 There are about 25 members in this club.
 A good player is Shinta Takeshima.
 Kosuke Urabe is runs the fastest in this club.
 Tessa Kumae can hit homerun.
 Let's join us. Very Good!

☆ 3. Research about teams/clubs ☆

1. Think about questions in your group. (5mins)
2. Ask questions classmates. (2mins, each student)

<questions>	<answers>
How many member in softball team?	→ twenty-four
What is a difficult thing?	→ difficult is throw
What is a fun thing?	→ I could do it
Using what are you playing softball?	→ ball, glove, bat

[リサーチ活動に使用したワークシート]

☆ 4. Write your team/club that you'll introduce ☆

We hear you haven't decided your club activity.
 We'll introduce our Softball team/club.
 Softball team has twenty-four members.
 They use balls, gloves and bats.
 They play softball after school.
 When it is a sunny day, they play softball in the ground.

2 英語を使った自然な形での話し合い活動

CLILでは、協同学習（ペアワーク、グループ活動）が重視されており、その中で行われる生徒間の



インタラクションにより、内容を深く学ぶことが可能となる。そこで、授業や学校行事において自分の意見を述べることに慣れている本校生徒の特徴を生かし、さらに課題についての理解を深めることができると考え、授業の中にできる限り多く、自然な形での話し合い活動を取り入れた。例として、日頃の授業内で、教科書の話の続きを考えさせたり、教科書の内容に入る前に導入として話し合い活動を入れるなど、できるだけ生徒同士が話し合う場面を多くした。ALTとのチームティーチングでは、インタビューカードを使い、生徒同士が何と言えよいか表現を考え、時間内にできるだけALTにインタビューするという活動を行った。その結果、生徒間にインタラクシ

ョンを行う必然性が生まれたことにより、既習の英語表現を時にはプリントや教科書を調べながら、授業内の様々な場面で積極的に使用する場面が見られるようになった。

◆検証授業 2 TOTAL ENGLISH 2 Lesson 2 “ Gestures ” ◆

研究初年度では、帯活動に One minute chat から発展させた QAQ を取り入れ、テーマに沿った生徒同士の英語によるインタラクションを豊富にさせようと試みた。QAQとは、同じテーマでの会話を、ペアで2回、4人グループで1回行い、最後に writing としてレポートを書かせる活動である。この活動を1年間にわたって行ったところ、QAQでの話し合い活動は活発になり、やり取りする力はある程度定着した。しかし、QAQで身に付けた表現を、他の場面で活用する様子があまり見られなかった。授業内の活動で話し合いをさせようと試みても、なかなかそこで身に付いた英語を使うことはできず、日本語での話し合いに終始してしまっただ。CLILと同じく、第2言語で教科内容を習得するイメージでも、「内容理解についてはL1（第1言語）の方が優れている。」といわれており、中間発表でもその点の指摘は多く受けた。



そこで、今回は帯活動という枠にとらわれずに、授業の中では「日本にはどんなジェスチャーがあるのか。」「どういう風にスキットを作ればわかりやすいものができるのか。」というこ

とを、『Discussing answers with others』という英会話お助けシートを使い、できるだけ英語での話し合い活動が多くなるように仕組んでみた。また、日本のジェスチャーを考える前に、前時にALTとの授業を導入としていれ、ジェスチャーは様々な国でいろいろな意味があるということを紹介してもらい、「Homestay Hell」という、ホームステイ先で声が出なくなってジェスチャーで会話をしなければいけないというゲームをして、ジェスチャーについて考える機会を多く与えた。

■単元指導計画及び評価計画

時間	○ねらい ・学習活動
第1時	○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・ALT との Gesture Quiz (Warm up)
	○【2A】過去進行形の表現に留意し、本文の内容を理解する。 ・教科書の挿絵から単語を覚える・過去形を用いた文の構造
第2時	○【2A】本文の内容を相手に説明する。① ・本文の内容理解・本文についてのリテリング
第3時	○【2B】接続詞 when を用いた表現に留意し、本文の内容を理解する。 ・教科書の挿絵から単語を覚える・接続詞 when を用いた文の構造
第4時	○【2B】本文の内容を相手に説明する。② ・本文の内容理解・本文についてのリテリング
第5時	○【2C】主語＋動詞＋目的語 (that 節) を用いた表現に留意し、本文の内容を理解する。 ・教科書の挿絵から単語を覚える・主語＋動詞＋目的語 (that 節) を用いた文の構造
第6時	○【2C】本文の内容を相手に説明する。③ ・本文の内容理解・本文について自分の考えを付け加えながらのリテリング
第7時 (本時)	○日本のジェスチャーを紹介する。 ・ペアになって日頃使っているジェスチャーを ALT に紹介する練習をする。(後日、ALT との授業で発表)

[Homestay Hell のワークシート]

How old are you?	I want to go home.
I go to <i>karaoke</i> every Saturday evening.	I feel sick.
What are your hobbies?	My favorite food is <i>tempura</i>.
Do you learn Japanese at school?	I swim seven hundred meters every weekend.
I want to speak English well.	I watched a horror movie on the plane.

■本時の目標

- ① 日本のジェスチャーを紹介する。
- ② 間違ふことを恐れず、英語で会話を続けようとする。

■本時の展開 ※**S-S** : Students-Students **SS** : Students (個人の活動)

時間	指導過程	学習活動	指導上の留意点	評価の視点
導入 (15分)	Greeting	・英語であいさつをする。		
	Chant	・CDに合わせてチャンツを歌う。 SS	・授業の雰囲気を作る。	・積極的に活動に取り組んでいるか。
	Word Training	・時間内に新出単語を書く練習をノートにする。(時間は音楽で提示) SS	・机間指導をして、生徒を支援する。	・積極的に活動に取り組んでいるか。
日本のジェスチャーをニコラス先生に紹介しよう。				
展開 (30分)	日本のジェスチャーを考える	・パートナーと日本にはどんなジェスチャーがあるか考える。 S-S	・例を示して、活動を促す。	・パートナーと協力しながら、活動に取り組んでいるか。
	“Gesture Skit”を作る	・教師の示すデモンストレーションを見る。 ・ジェスチャーを1つ選んで、そのジェスチャーを入れたスキットを作る。 S-S	・机間指導をして、生徒を支援する。	・ジェスチャーの意味に沿ったスキットを考えようとしているか。
<p>Chieko: We'll introduce this gesture. It means “angry.” When we get angry, we use it. For example...</p> <p>Chieko: Let's go to the park! Let's play tennis!</p> <p>Taro: I want to go there, but I can't.</p> <p>Chieko: Why not?</p> <p>Taro : My mother was angry in this morning. So I can't play outside.</p>				
	“Gesture Skit”を紹介してみよう	・他のペアーに “Gesture Skit”を紹介する。 S-S		・既習の表現を積極的に使おうとしているか。
まとめ (5分)	Conclusion	・本時の活動を CAN-DO Check で振り返る。 SS	・机間指導をして、生徒を支援する。	・何ができたのか、きちんと振り返ろうとしているか。
	Greeting	・あいさつをする。		

授業の中では、『Discussing answers with others』という英会話お助けシートを用い、話し合い中に活用するように促した。また、『CAN-DO CHECK SHEET』で、「話すこと（やり取り）：お互いに知りたい情報を、英語でやり取りすることができた。」かどうかをまとめて振りかえさせることで、英語で話し合うことにできるだけ意識を向けさせた。

その結果、まだ情報をお互いにやり取りするには十分ではないが、英語で話し合おうとする姿勢が随所で見られた。また、『Discussing answers with others』のシートを一度に提示するのでは、生徒はファイルに挟むだけであまり活用しようとする姿勢がなかったため、生徒同士の話し合いの前に、『Discussing answers with others』の「What do you think?」や「I think...」、「Sorry, I have no idea.」等の一部の英文だけを発音練習をし、その後教師に質問させて教師がそれに対して「I think...」と答えるようにした。生徒同士のインタラクションの前に教師と生徒のインタラクションを挟むことで、それが生徒への見本となり、生徒同士の話し合い活動にスムーズに展開することができた。

今後継続してこのような活動を授業の中に取り込んでいくとともに、学年が上がるごとに『Discussing answers with others』をバージョンアップさせることも検討された。

[2・3年用の Discussing answers with others]

< Discussing answers with others >

- How about (number 1)?
What about (number 1)?
「(1)はどう思う?」
- I think it's ...
「私は…だと思ろ。」
- What did you put for (number 1)?
「(1)に何入れた?」
- I put ...
「私は…って入れた。」
- Really? I thought it was ...
「本当? 私は…って思ってたんだけど。」
- Me, too.
「私も。」
- What do you think?
「どう思う?」
- Sounds good.
「いいね。」
- Sorry, I've no idea.
「ごめんね、考え浮かばないや。」
- Sorry, I don't know.
「ごめんね、わかんないや。」
- Let's skip it.
「この問題抜かしちゃおう。」
- Let's move on.
「次のをやっちゃおう。」
- Let's ask (teacher's name).
「先生に聞こうよ。」

あいづちフレーズ

- I think so, too.
私もそう思う。
- I know what you said!
それ分かる!
- Sounds good / great / nice.
いいね。
- Ok.
はいはい。
- Uh-huh.
うんうん。
- Oh, I see
なるほど。

意見交換フレーズ

- How was it?
どうだった?
- I think he / she is <kind>.
私は 彼/彼女 が <親切> だって思う。
- You did a great job.
よく頑張ったね。
- That's interesting!
面白いね!
- I know him / her (well).
(よく) 知ってるよ。
- Do you know him / her ?
彼 / 彼女 のこと知ってる?
- I have no ideas.
分かんないや。
- I know only his / her name.
名前ぐらいは知ってる。
- Let's ask (teacher's name).
先生に聞いてみよう。
- Now it's my turn!
じゃあ私の番ね!

3 実生活に近い課題の設定

CLILは、オーセンティック素材を使い、実生活と密接に関係するものを題材とするが、CLILの考え方をそのまま厳格に実施しようとする、中学校での展開は難しいと感じる点が多い。たとえば、CLILでは環境問題や人権問題などについて課題設定することが多い。しかし、中学生にとってはあまりなじみのあるものとは言えず、英語で表現しようとしても習得語彙が少ないこともあって大変難しい。そこで、本研究では題材の中でも生徒が自分自身のこととして取り組める課題を設定した。

中でも生徒には一番なじみのある活動は学活であると考えた。学年初めに行う自己紹介や他己紹介、クラスの良い点について考えるなどは、生徒にとっては学校生活の中で普段から行われていることであり、より身近な事として英語の授業に取り入れられないかと考えた。また全国学力・学習状況調査質問紙調査の結果から、身近な課題に対して意欲的に取り組むだけでなく、その学習内容について高い理解を示すことが明らかとなっている。このことから、生徒にとって学校での身近な内容を題材とするCLIL的な学習法は、本校の英語教育に有用な指導法であると考えた。

◆検証授業 3 TOTAL ENGLISH 1 Lesson 4 “Nice to Meet You” ◆

Lesson 4では、登場人物のベンがヒロに友達を紹介する場面から始まる。この友達を紹介する場面を学活で行っている友達紹介と結び付けられないかと考えた。そこで、学年の始めに学活で取り組むことの多い、他己紹介を兼ねた友達クイズをヒントに授業を作った。

本時の前に、既習のAre you～?を用いてクラスメイトにインタビューしたことを、He (She) is～.の英文でノートにまとめるという活動を行い、その英文を頼りに、クラスメイトの名前が答えとなる4ヒントクイズを作成した。グループやクラス全体の前で発表するという活動を本時のメインの活動にし、また、グループで活動する際に、英語で話し合いや発表活動がすすめられるように工夫した。

■単元の指導計画及び評価計画

時間	○ねらい ・学習活動
第1時	○【4A】本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・違う班の人から聞き取った内容を、自分のペアに報告する。
第2時	○【4A】本文の内容を理解する。 ・本文の内容理解・前時にペアに報告した英文を書く。
第3時 (本時)	○【4A】クラスメイトを紹介するクイズを作成し発表する。 ・教師が作ったクイズの英文を通して、クラスメイトを紹介する表現を理解する。 ・クイズを作成し、発表する。
第4時	○【4B】○Is that ～? — Yes, it is. / No, it isn't. の文の構造
第5時	○【4B】○本文の内容を理解する。
第6時	○【4C】○What's ～. — It's a ～. の文の構造・地図記号やピクトグラムのクイズ
第7時	○【4C】○本文の内容理解・日本独自のもの（風物・食品など）を紹介する文を考える。
第8時	○日本独自のものを英語で紹介する。 ・前時に考えた英文をクラスの人に伝える。

■本時の学習目標

- ①クラスメイトを紹介する英文について、聞き手に内容が伝わるように話すことができる。
- ②クラスメイトを紹介する英文を聞いて、理解することができる。

■本時の展開

※**S-S** : Students – Students **SS** : Students (個人の活動) **TS** : Teacher - Students

時間	指導過程	学習活動	指導上の留意点	評価の視点
導入 (15分)	Greeting Words English Chants Review	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、日付、曜日等を確認する。 TS ・英単語マシンを見て、教師の後についてリピートする TS ・ペアで単語を10個ずつ選び、互いに問題を出し合う S-S ・リズム・音楽に合わせて、英語を発話する SS ・教師が作った4ヒントクイズの答えを考える TS 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の雰囲気を作る。 ・テンポよく確認していく。 ・発話しやすい雰囲気を作る。 ・テンポよく確認していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に活動に取り組んでいるか。 ・積極的に活動に取り組んでいるか。 ・積極的に活動に取り組んでいるか。 ・質問の意味を理解しているか。
<p>クラスメイトを紹介する 4ヒントクイズを作ろう</p>				
展開 (30分)	Making quiz Group work Presentation	<ul style="list-style-type: none"> ・Reviewのクイズ、前時にノートに書いた英文を参考にクラスメイトを紹介する4ヒントクイズを作る SS ・4人グループで、個々に作ったクイズをシェアする。 S-S ・誰のクイズを発表に使うか、第1から第4候補までを決める。 S-S ・誰がどの英文を言うか分担し、リハーサルをする S-S ・1班から順番にクイズの英文を発表する。 SS ・発表を聞いて、誰のことを言っているのか予想する。 SS ・クイズの答え合わせをする。 SS 例: Is he ~? -Yes, he is. / No, he isn't. 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の前にやり方・手順を示す ・活動の前にやり方・手順を示す ・負担が偏らないようにする ・苦手な生徒を個別に支援する ・活動の前にやり方・手順を示す ・発表しやすい雰囲気を作る ・英語で応答させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に活動に取り組んでいるか。 ・班の人とコミュニケーションをとっているか。 ・使用してほしい英語を使って話し合いをすすめられているか。 ・積極的に活動に取り組んでいるか。 ・英語で発話しようとしているか。 ・班で協力しているか。 ・積極的に発表しようとしているか。 ・積極的に聞こうとしているか。
まとめ (5分)	Can-Do check sheet Greeting	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の活動を振り返る SS ・あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雰囲気の切り替える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習ったことを理解しているか。

Review の活動（前時の振り返り）では、Lesson 4 A で学習した is を使った 4 ヒントクイズを全体に提示し、答えを考えさせた。この活動が、この後の 4 ヒントクイズを作成する活動のモデルになるように同じ形式で行った。

クイズを作成する際の留意点、グループでの発表や話し合い活動を英語ですすめていくための留意点など、活動に入る前に説明、提示すべきことがたくさんあったが、流れや時間配分を考えて必要最小限にして、速やかに活動に入った。その結果、英語が得意な生徒がいるグループについては、ねらいに沿った活動ができたが、得意な生徒がいないグループについては、活動が停滞してしまう場面が見られた。



苦手な生徒でも、手順や留意点が理解できるような時間の設定や提示の工夫をもう少しすれば良かったと思う。また、使用する英文のパターンが限られているため、早く終わって待っているグループも複数あった。得意な生徒が早く終わってしまった時に、取組むことができる発展的な課題を準備する必要があったと思う。

クラス全体での発表では、すぐに正解の生徒の名前が出ず、多くの生徒が「じゃあ誰だろう？」という興味・関心をもちながら、活動に取り組むことができた。

本時のまとめについては、課題が残った。振り返り用紙を書くだけで終わってしまったので、それに加えて、その日の活動や学んだことを深められるような手立てが必要であった。

授業全体を考えたときに、英語でのやり取り、発表活動、教師の指示が日本語の場合でも有効なものなのか、日本語での活動でも不自然ではないのかということが、重要だと感じた。また、英語で話し合いをすすめるためのガイドとなるものを生徒に提示するのは大変有効であるが、すべてを提示するのではなく生徒自身が考えて活用できる余地を残しておくことも大切であった。

得意な生徒向けの課題としては、プラス 1 文という形で未習の英文を混ぜてもいいというルールを作って、その文をクイズのどのタイミングではさむかということを考え話し合う活動を入れると、有益な時間を過ごせたのではないだろうか。

最後のまとめ、振り返りの所で、話し合いの中で使えた英語を生徒に聞いてみるとか、役に立った英語をリポートして練習してみるなどの活動を行うだけでも、学んだことを深めることができたのではないだろうか。



[授業のワークシート]

クラスメイトにインタビューしよう!

class: name:

Are you~? を使ってクラスの人にインタビューをしましょう。聞き取った内容を以下の表にメモしてください。

インタビューの内容	使う英語	聞いた相手の答えをメモしよう
出身小学校	Are you from~?	
部活動	Are you in ~club?	
好きなもの	Are you ~fan?	
13歳か	Are you 13 years old?	
今日の体調は?	How are you?	

インタビューした相手の名前を書きましょう→()

インタビューの内容	使う英語	聞いた相手の答えをメモしよう
出身小学校	Are you from~?	
部活動	Are you in ~club?	
好きなもの	Are you ~fan?	
13歳か	Are you 13 years old?	
今日の体調は?	How are you?	

インタビューした相手の名前を書きましょう→()

インタビューの内容	使う英語	聞いた相手の答えをメモしよう
出身小学校	Are you from~?	
部活動	Are you in ~club?	
好きなもの	Are you ~fan?	
13歳か	Are you 13 years old?	
今日の体調は?	How are you?	

インタビューした相手の名前を書きましょう→()

インタビューの内容	使う英語	聞いた相手の答えをメモしよう
出身小学校	Are you from~?	
部活動	Are you in ~club?	
好きなもの	Are you ~fan?	
13歳か	Are you 13 years old?	
今日の体調は?	How are you?	

インタビューした相手の名前を書きましょう→()

Let's enjoy 4 hint quiz!

クラス発表までの流れ

- ①4人組で互いのクイズを発表する。
- ②班の中で、誰のクイズをクラス発表で使うか。第1～第4候補まで決める。
- ③何番目の英文を誰が言うか。班の中で分担する。
- ④クラス発表に向けて練習(リハーサル)をする。

"Classmate Quiz" group talking list (クラスメイトクイズ話し合いリスト)
クイズの班発表、話し合いの中で、自分が言った英語をチェックし、合計ポイントを記入しよう。

○: 適切なタイミングで言えた→1pts △: とりあえず言えた→0.5pts
×: 言わなかった、進行のジャマになってしまった→0pts

英語	意味	チェック
Let's start quiz.	クイズを始めましょう	
Who is the first presenter?	誰が最初の発表者ですか?	
I am the first.	私が最初です。	
I'm not the first.	私は最初ではありません。	
Who is the next?	次は誰ですか?	
I am the next.	私が次です。	
I'm not the next.	私が次ではありません。	
Is he ~ (男子の名前)?	彼は~ですか?	
Yes he is. / No, he isn't.	はい、そうです。 / いいえ違います。	
Is she ~ (女子の名前)?	彼女は~ですか?	
Yes she is. / No, she isn't.	はい、そうです。 / いいえ違います。	
Your quiz is ~.	あなたのクイズは~です。 (良い / 面白い / 難しい / ...)	

英語	意味	チェック
Me, too.	私もです。	
Really?	本当に?	
How about you?	あなたはどうですか?	
Thank you.	ありがとう。	
Which quiz is the first?	どのクイズを第1候補にする?	
~s quiz is good.	~さんのクイズが良いです。	
Which quiz is the next?	次の候補はどのクイズにする?	
Let's decide the order.	順番を決めましょう	
Who is the first sentence?	最初の文は誰にする?	
Let's practice together.	一緒に練習しよう	

その趣、意の話し合いの中で選んだ英語があれは復習をメモしよう。

ポイントの合計を数字で書きましょう→()

IV 研究のまとめ

1 研究の成果と課題

(1) 教科書を基底に捉えた発展学習

「発信力を高めるということについては、英語にとって大変重要な要素であり、英語を学習していくうえで、最終的には英語を使用（コミュニケーションツールとして）し、自身の考えや意見、知識を他へ伝える、表現することができるようになることが必要。そのような点において、CLILはとても有効的な学習である。CLILを取り入れることによって、子どもたちの授業への興味、関心が高まり、学習へのよい動機づけにもなるので、大変効果的。」（昨年度中間発表より）ではあるが、一方で、どんな題材にするのか、どんなtaskを設定するのかが、課題でもあり、教員にとっても大きな負担になっていた。そこで、教科書内容をさらに発展させる形でのtaskの設定をすることで、一から考えなければならないという負担を軽くし、何より教科書は生徒一人ひとりが確実に手元にあり、繰り返し見直すことができるという利点を利用した。また、さらに既習事項の中に自分が使いたい表現があることに「気付かせる」ことで、教科書を繰り返し生徒自身が見直しながら学習する姿が見られるようになった。

しかし、教科書の題材には生徒にとって、身近なものだけではなく、なじみの薄いものも多い。題材がなじみのないものの場合、英語を通しての内容理解はやはり困難なものになってしまった。そこで、今後の課題としては、他教科の既習内容を利用しての発展的な活動が考えられる。学校で年度当初に作成される各教科の年間学習計画を利用することで、容易に既習事項は調べることができ、生徒が英語を通して他教科の内容を学び直すことができる。また、下の学年の教科書や小学校で使用している「Hi, friends!」を利用して、生徒の内容理解の負担を軽減するとともに、簡単な表現からさらに発展させた表現活動に移すことも可能だろう。

(2) 英語での言語活動を広げるインタラクションの実践

「帯活動は授業の最初にやるもの」という固定観念をはずし、授業の中でできるだけ多くの場面で、継続的な話し合い活動を取り入れたことで、英語での話し合い活動では特別な活動ではなく、授業の中で、間違いを恐れずにできるだけ英語で会話を続けようとする姿勢が見られるようになった。協働しながら、対話的に主体的に学ぶことも可能となり、題材について他者との会話を通して、生徒一人ひとりが内容（content）について、または与えられた課題（task）について深く考えることができるようになった。

しかしながら、まだまだ自由に英語を使って英語での活動をスムーズに行えるというレベルにまでは達していない。今後、『Discussing answers with others』のような、英会話お助けシートを課ごとに作成し、生徒自身が使いたい表現を、教科書などの既習事項の中から振り返ってピックアップできるように促してあげられるような手立てが必要と考えられる。

(3) 生徒の実生活に近い課題の設定

CLILは、オーセンティック素材を使い、実生活と密接に関係するものを題材とする。環境問題や自然科学、社会問題を扱う場合が多く、英語の習得がある程度進んでいないと取り組むことが難しいといわれてきた。中学校で取り組むことを考えると、やはり課題設定が難しく、あまりなじみのない実生活とかけ離れたものになると、自分の考えが英語で表現することが難しくなるだけでなく、課題について考えることすら難しくなる。また、外国人に紹介するという設定をした場合、英語で表現する必然性は出て



くるが、「日本とは…」という風に考えることが多くなり、日本のことについてあまり知識がないこともあり、調べることから取り組まなければならず、中学校の現状の授業時間数を考えると難しかった。そこで、題材の中でも生徒の実生活に近く、自分自身のこととして取り組める課題である学活での活動に注目し、授業の中に取り入れた。

その結果、表現内容が容易になり、生徒自身が自分の考えを表現しやすくなっただけでなく、学活等で話し合い活動になれているため、その課題について他者と話し合う

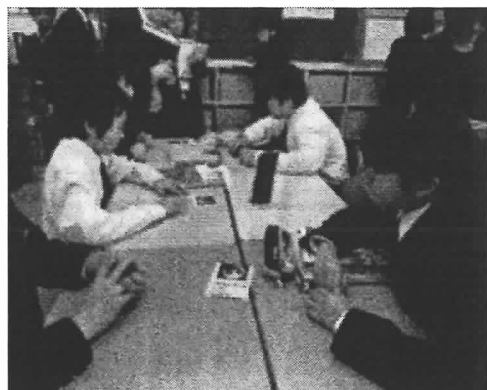
ことで深く考えることができるようになった。

課題としては、生徒が自由に表現したものの間違いをどのように指導、評価するかということである。

2 まとめ ～CLILを視野に含めた言語活動 MeaningからForm、そしてMeaningへ～

今までは、最初に新出単語や文法事項を指導し、それから教科書の内容理解や発展的な言語活動を行うという展開が多かった。しかし、教科書内容を中心に置き、その中で新出単語や文法事項を練習していくというCLIL的なアプローチ法に変えたところ、意味や内容を考えながらの自然な形での言語の習得が見られるようになった。

また、教科書の意味を取り扱った後の言語活動にも変容が見られた。言語活動の中で、ただ単に文法事項を使った文型練習



(pattern practice)ではなく、教科書内容を踏まえたうえでの発展的な活動をする生徒が見られるようになってきたのである。

教員にとっても、従来の文法中心の授業計画を、CLIL的なアプローチ方法に変えることで、大きな変化が見られた。ただ単に文法や単語の使用法が適切であるかだけに終始してしまいがちだったものが、自分の考えを表現することを基準にした適切な表現とは何かを考えることができるようになるきっかけとなった。また、内容を中心に授業を展開することで、生徒の中で、伝えようという意識が強まっている。これからの課題としては、どんな内容のものを選択すれば、さらに伝えようという意識をさらに高めることができるのか。そのためにはどんな仕掛けをするかなどについて考えていく必要がある。

おわりに

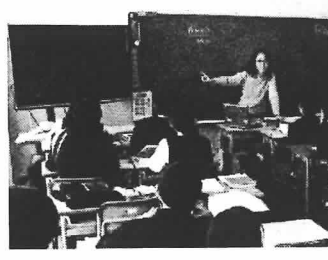
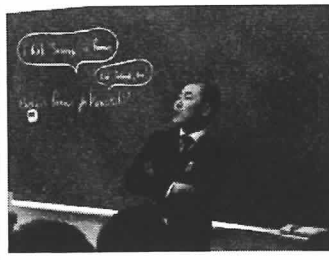
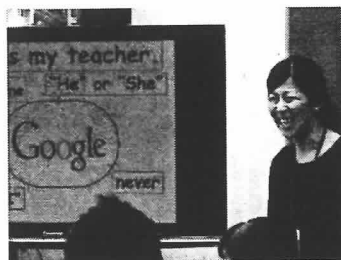
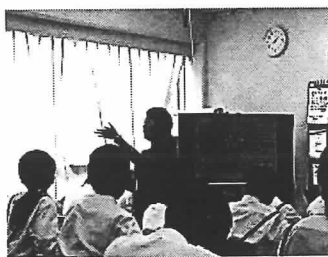
平成 28・29 年度の 2 年間にわたり、授業研究をする機会をいただきましたが、はじめは戸惑うばかりでした。英語科総勢 7 人とはいえ、皆、研究推進を受けるのは初めての職員ばかりでした。正直、何かから手を付けてよいのかわからず、途方に暮れる日々でした。しかし、今振り返ってみると、多くの先生方に授業を見てアドバイスをいただいたり、研究会に参加したり、先行研究の分析を進めるなどして、様々な形で自分自身の授業を見直せたことは大変有意義でした。そして、研究を進める中で、生徒の変化を感じ、嬉しく感じた瞬間も多々ありました。

今年は特に、教育課程研究会や研究会でも、新学習指導要領について聞くことが多くなりました。「聞くこと・読むこと・話すこと（やり取り）・話すこと（発表）・書くこと」の 4 技能 5 領域への変化、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善など、これからの英語教育の課題は山積みです。しかし、この 2 年間の研究を通して、一番大切にしなければならないものは「生徒たちの姿」だということに気づきました。世の中には様々な授業方法や学習理論があり、日々我々に求められるものが多くなっています。ですが、それに惑わされることなく、我々の本当に見て考えていかなければならないのは、「生徒達一人ひとりにどんな力をつけてあげたいのか」ということなのではないでしょうか。

本研究紀要の中でも触れましたが、他言語の人々の考え方や価値観は他の教科で学ぶことができます。文献でも読むことができます。しかし、外国語を通して直接触れ、伝え合う喜びを学ぶことができるのは「英語」という教科だけなのではないでしょうか。「英語」を通して、直接他文化に触れることで、生徒たちの未来が広がっていくよう、これからも精進していきたいと思います。

平成 29 年 11 月 24 日

川崎市立橘中学校 英語科一同



<参考文献>

文科省 中学校学習指導要領

文科省 中学校学習指導要領解説 外国語編

平成 26・27 年度 川崎市教育委員会研究推進外国語科（英語科）研究紀要 菅生中学校

第 40 回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会 神奈川大会 研究紀要

和泉伸一（2016）『フォーカス・オン・フォームと CLIL の英語授業』アルク

廣森友人（2015）『英語学習のメカニズム』大修館書店

和泉伸一（2017）『第 2 言語習得と母語習得から「言葉の学び」を考える』アルク

笹島茂（2011）『CLIL 新しい発想の授業—理科や歴史を外国語で教える！？』三修社

渡部良典、池田真、和泉伸一[共著]（2011）『CLIL 内容統合型学習 第 1 巻』上智大学出版

<指導助言者>

川崎市立中学校教育研究会英語科部会 部会長 金子 勉 先生

副部会長 小沼謙一郎 先生

川崎市総合教育センター 指導主事 伊藤 敏明 先生

指導主事 鬼頭 洋司 先生

東京家政大学 教授 太田 洋 先生

玉川大学 准教授 工藤 洋路 先生

<研究に携わった教職員>

学校長 相沢 宏明 教頭 後藤 建人 前学校長 渡邊 壽久

英語科 山川 知恵子 平間 真実 今井 あすか 中屋敷 康子 倉坂 光 佐藤 良平

長尾 希代美 Nicholas Rich

平成 28・29 年度 橘中学校 教職員一同

平成 28・29 年度 川崎市教育委員会 研究推進校

外国語（英語）
学ぶ意欲を高め、発信力へとつなげる指導法の工夫
～ CLIL の研究を通して～

発行 川崎市立橘中学校
発行日 平成 29 年 11 月 24 日

印刷（有）中溝グラフィック
TEL 044-333-2787
